

第6学年3組

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
— 相手の立場を考え、自分の意見を伝える子ども —

2 育てたい力

◆表現力

- 自分なりの考えや意見を持つ。
- 自分なりの考えや意見をまとめ、言葉や文字に表す。
- 言葉や文字、身振り、手振りなどで他人に分かるように伝える。

◆コミュニケーション力

- 話を聞く態度、聞き取る能力。
- 表現する能力。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕 話をするスキルを身に付け、自信をもって発表する。

- 具体的な「話し方のスキル」を知る。
(三部構成【結論—理由—結論】、ラベリング、ナンバリング)
- バリエーションに応じた発表形態の工夫
(ペア(2人)、小グループ(3～5人)、グループ(6～10人)、全体)
- 1分程度の原稿をペーパーレスで発表する。
(作文メモカードの使用)

〔視点2〕 「考え」や「意見」のある発表(プレゼンテーション)を行う。

- 「意見」とは、人が考えたことであることを知る。
(「事実」「意見」「情報」の分類を行うエクササイズ)
- 意見の作り方ゲームを取り入れる。
(複数の情報から意見を組み立てるエクササイズ)
- 複数の情報から意見を組み立てる。
(情報カードと意見リストの活用により意見の構築をはかる。)
- 評価カードを活用する。
(話をして気付いたことなどを自己評価する。)

〔視点3〕 聞き手の態度を向上させる。(聞き手のスキルアップ)

- アイコンタクトゲームを取り入れる。
(目を見て話すこと、聞くことの心地よさを感じる。)
- 具体的なインタラクションの取り方を教える。
(声量、目線、表情、姿勢、相槌、うなずき、拍手、質問)
- 評価カードを活用する。
(聞いたこと、話をした人へ気付いたことなどの他者評価を行う。)

【最終的なめあて】

- ◎「考え」や「意見」のある話し方をさせたい。
- ◎「考え」や「意見」を発表することが『『すき』という子ども以外(どちらとも言えない／きらい)』の子どもたちを変容させ、伸ばしていきたい。

第6学年3組 成果と課題

研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
—相手の立場を考え、自分の意見を伝える子ども— について

〔視点1〕話をするスキルを身に付け、自信をもって発表する。

- 具体的な「話し方のスキル」を知ること、普段の授業や文章づくり、スピーチでも三部構成【結論—理由—結論】を意識した話し方を行う姿が見られた。
- バリエーションに応じた発表形態の工夫を数多く経験することで、少人数グループ内での発表に少しずつ抵抗が少なくなった。
- 1分程度原稿を【作文メモカードの使用】を行うことで、抵抗なく紙面を見ないで発表することができるようになった。
- ▲全体で発表するとなると、少人数グループ内での発表と違った、緊張感に包まれ、話し方に違いが生じ、自信をもった発表の仕方が失われる場面もみられた。今後も、学び方や場の工夫など改善の余地があると思われる。

〔視点2〕「考え」や「意見」のある発表（プレゼンテーション）を行う。

- 意見づくりを行うにあたり、「事実」「意見」「情報」を分類するエクササイズを行い、各々の違いに気づくことができた。
- 意見の作り方ゲームを取り入れることで、複数の情報から意見を組み立てることへの抵抗が徐々に解消された。
- 情報カードの活用により、情報の整理がスムーズに図れ、意見の構築につながった。
- 評価カードを活用することで、発表後に、話をして気付いたことなどを自己評価することができた。また、自己評価を生かして、次の機会に自分の考え発表する姿がみられた。
- ▲授業の中で、様々な手だてを図ることで、意識した意見づくりを行うことができるようになったが、普段の生活の中で応用がきかず、実践が生かされていない場面もみられた。提示・内容も含めて、教師側の系統性に富んだ綿密な計画をさらに吟味していく必要があると思われる。

〔視点3〕聞き手の態度を向上させる。（聞き手のスキルアップ）

- 話し手が目を見て話すことの安心感、聴き手が発表を聞くことの心地よさを感じさせるために、アイコンタクトゲームなどを取り入れた。ゲームを取り入れることで、アイコンタクトのよさを感じ取っていた。
- 非言語（声量、目線、表情、姿勢、相槌、うなずき、拍手、質問）の活用の仕方を紹介して、言語以外の活動においても気持ちや考えを伝えられることに気づいていた。また、非言語を知ること、話し手も聴き手も、互いのやりとりをはかるといった、具体的なインタラクションの取り方を行える子どもたちも増えてきた。さらに、互いのやりとりの心地よさを知ること、一方通行の発表から相手に質問を投げかけたり、反応を確かめたりするなど双方向のコミュニケーションがみられた。
- 友だちからの評価カードを活用することで、話をした人からの気付きやアドバイスを知ることができ、自己評価と合わせて、自分の発表の仕方に活用することができた。また、自分が工夫したことを相手に評価してもらったり、よかったところを誉めてもらったりすることで、発表の仕方に自信を深めるといった効果もみられた。
- ▲評価時間の確保が時間内で行うことが難しかった。評価活動を行うことで様々な効果がみられたが、学習活動の時間の中でどのように位置づけ、組み込んでいくか、また、さらに効果的で、効率のよい評価の仕方が今後の課題だと強く感じた。